

「entree 建築学科棟 えんつりー」のコンセプト

建築学科棟えんつりーは、建築の教育の場として相応しい学び舎とするため、次のようなデザインコンセプトのもとに設計されました。

◇社会との接点となる建築学科棟「地域の縁側」

大学の地域連携の拠点となり、地域に貢献する人材を育む校舎自体が「地域の縁側」となる

◇大きな軒下空間

学生と教員、地域の住民が日常的に触れあい、様々な活動が融合する広場となる「大きな軒下空間」

◇オープン性を高めたラーニングスペース

デザインスタジオ、講評室、ラウンジやラボなどのオープンスペースを介して、様々な活動がつながり、新たな思考が創出される

◇校舎そのものが教材

力の流れが目に見える「構造」、「環境装置」として働き見える「設備」、土地の材料を使って手に触れる「材料」

◇キャンパスモールを受け止めるランドスケープ

キャンパスの軸やつながりを受けとめ、一体化した重なりを持つ空間

◇短工期を可能にする構造計画

メインフレームを鉄骨とし、木の温かみを感じる木材を随所に使用する

◇アクティビティと連動した「建築環境」

優れた外皮性能とともに、共用部を半屋外化して空調空間を縮小させ、消費エネルギーを削減する。

◇建築とシステムを融合した省エネ

外部日射遮蔽や LED 照明の採用等によるエネルギー負荷の削減と、自然換気によるパッシブ性能を重視した建築

◇地域防災の拠点となる安全・安心の学び舎

大地震などの災害時に安全に建物内に留まれる安全性に加え、天井材落下などの二次的な災害を防ぐ「安心・安全の学び舎」

意匠・計画 Design・Planning

台形のキャンパスモールには微妙に異なる2つの軸線が存在します。2つの軸線を結びつけるために導入されたのが曲面壁です。南北から法面がせまった敷地の制約もあって、柱を外側に傾斜させ、上階ほど床面積が大きい構成としています。各階はできるだけ壁を設けずに出会いからコミュニケーションを促進させる空間として計画されました。



2つの軸線を結びつける曲面壁



上階ほど床面積が広い構成